

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・ここ数か月、毎月の利用者数が過去最高を更新し続けている。中国からのインバウンドこそ減少が続いているものの、それ以外の国や地域からのインバウンド及び国内観光客が好調なことから、中国のマイナス分を補って余りある状態となっている。さらに、今後の物価上昇を見越して、今年度初めから値上げした商品やフードメニューについても、値上げ前と変わらない注文があり、客単価の上昇につながっている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年は米国の関税の影響により、4月以降、インバウンドが苦戦したことから、今年はその反動でインバウンドが好調に推移している。国内客による売上は前年をやや下回っているものの、インバウンドでカバーできている状況にある。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・物価の上昇や原油価格の高騰、ナフサの供給不安などの問題は引き続きみられるものの、春から初夏に季節が移り変わるにつれ、様々なイベントが開催され始めていることで、客の消費意欲が高まっている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・衣食住の各部門で来客数が増加している。特にUV対策関連商材の動きが良くなっている。客が、猛暑を想定して早めに対応している様子がうかがえる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・少しではあるものの、観光客による利用が増えている。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・4月13日に運賃の値上げを実施したことで、売上は好調に推移している。ただし、利用者数は減少している。
	○	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・春以降の人流回復を背景に、店舗への来店や相談は、一定水準で推移している。特に都心部では、料金プランの見直しや固定通信などの付帯サービスに関する相談が継続してみられる。一方、物価の上昇や生活費の負担増の影響から、契約内容や費用対効果を慎重に検討する客が増えており、複数の選択肢を見比べる動きが強まっている。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光需要期を迎え、旅客、車両共に増加している。ただし、ゴールデンウィーク期間中に一部欠航がみられたことで、伸びがやや鈍化している。全体的には、今後も期待できる状況となっている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・地域住民を含め、中心街を歩く人が少ない。駐車場の利用状況も、管外ナンバーの車両を始め、利用数がそれほど多くない状況にある。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・来客数の動きをみると、前年を若干下回っている傾向は、以前と変わっていない。ただし、買上点数は増加傾向にある。商品の値上げが進むなか、より安価な商品に切り替えたり、小容量品を購入したりする動きが目立っている。
	□	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価が高騰していることもあって、景気は変わっていない。
	□	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・商品の値上げが続いている一方で、客単価の伸びはそれほど大きくない。客の様子をみると、単価の高い弁当などを買わない傾向が強まっている。たばこの売上も減っている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客が消費に後ろ向きな状況が続いている。中東情勢の影響が、客の消費行動にも及んでいる様子がうかがえる。
□	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・前年と比べると、気温の上がり方がやや鈍く、例年並みで推移している。このため、初夏物の売行きが低調に推移していたものの、気温が上昇するにつれて、動き始めている。景気はこれまでと大きく変わっていない。	

□	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・長期予報で、今年は猛暑が予想されていることに加え、エアコンの新たな省エネ基準が2027年から適用されることが報道されていることで、エアコンの販売が好調に推移している。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・様々な要因による物価上昇の影響で、客の購買意欲が低下している。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・乗客数は伸びているものの、以前と比べて、販売に結び付く割合が低下している。
□	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・イベントを開催すると、客の来場こそあるものの、販売まで結び付かない客が増えている。客の興味はあっても、なかなか購入まで至らない状況にある。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車、中古車、整備工場のいずれも前年比で1～2割ほど増加しているものの、3か月前と比べると、余り大きな変化はみられない。前年がかなり悪い状況であったため、景気が良くなっているとはいえない状況にある。
□	住関連専門店（役員）	お客様の様子	・3か月前と比べると、売上の前年比は上昇しているものの、中東情勢の影響を受けている商品の売上が増加していることによるものである。特殊要因が影響していることから、景気が上向いているとはいえない状況にある。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・5月の集客動向をみると、ゴールデンウィークに加え、地域一体となった人気アニメのイベントの効果により、増加傾向で推移した。ただし、物価高の影響により、イベント参加企業以外では厳しい状況が続いていることから、景気が上向いているとまではいえない。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・物価高騰の影響が続くなか、消費者の節約志向が強まっており、全体的に支出を控える動きがみられる。ただし、安近短の旅行に対するニーズは強く、前年と同じような水準を維持している。
□	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・引き続き住宅着工数が落ち込んでいることから、苦戦している。また、原材料の不足や価格上昇といった動きもみられるため、非常に景気が悪い状態にある。
□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・金利の上昇やナフサ問題などを要因に、客の購買意欲が低下している。今後、建築コストが上昇する懸念があることもマイナスである。
▲	商店街（代表者）	単価の動き	・平均客単価はやや上昇している。ただし、中間価格帯の商品の売行きが落ち込み、低価格帯商品と高価格帯商品の2極化が進んでいることから、景気はやや悪くなっている。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・インバウンドの利用客が前年よりも増えている。国内客は、修学旅行が減っているものの、年配の団体旅行や個人の小グループ旅行が増えていることから、前年よりも利用客が増えている。ただし、冬の観光シーズンであった3か月前と比べると、景気はやや悪くなっている。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・最近の相次ぐ商品の値上げ、特に石油関連製品の値上げが客の購買力を著しくそいでいる。し好品である酒類への支出が大きく抑えられている状況にある。
▲	スーパー（店長）	それ以外	・ナフサ問題の影響で、コストが上昇していることから、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・物価高への対策がうまくできていないことから、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・中東情勢の影響により、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・社会情勢が不安定なことから、ここに来て客の買物頻度が伸び悩んでいる。来客数が減少しているだけでなく、買上点数も落ち込んでいる。ただし、商品単価が上昇している影響で、売上は前年を上回っている。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・客が週末にまとめ買いする傾向が強まっている。ガソリン代を節約するため、買物に出掛ける回数を減らしているという客の声を聞く機会が増えている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・し好品である酒、たばこの売上減少が続いている。それに伴って、来客数も減少している。

▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・例年であれば、農家の利用が増えてくる時期であるものの、パンやおにぎりなどの販売量の動きが鈍くなっている。様々な商品の値上げの影響を受けて、ちょっとした買物を減らしているとみられる。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・前月と同様に、物価高を要因とした客の節約志向が続いている。
▲	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・5月の売上は、計画比103%となっているものの、小売部門の商品販売額が90%と落ち込んでいることから、景気はやや悪くなっている。ただし、メンテナンスなどの整備部門の売上が増加していることで、小売部門の落ち込みをカバーできている状況にある。
▲	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・小規模の医薬品店は、顧客の健康情報をきめ細やかに把握することで安定した経営につなげている面がある。景気を上向かせるためには、自店のアピールと同時に、従業員のレベルを高める努力が必要である。
▲	その他専門店 〔造花〕（店長）	お客様の様子	・ナフサを始めとした石油化学製品の価格高騰、出荷制限の影響により、商品の入荷に支障が出始めている。また、輸入商品を運ぶ船便の寄港が予定よりもかなり遅れていることで、輸入商品の販売にも影響が出ている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・5月は、ゴールデンウィーク後に売上が落ち込んだことから、景気はやや悪くなっている。気温は上がってきたものの、来客数が減少しており、店内の雰囲気が寂しくなっている。ナフサ問題については、当店への影響はそれほどみられないものの、ポリ袋などの購入制限が出ていることから、知人のパン店では、個包装をやめたいとの話が出ている。また、仕入れている魚の単価が上がっており、コース料理に組み込みにくくなっている。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の影響により、国内客、インバウンド共に、集客が伸び悩んでいる。要因として、ジェット燃料の価格高騰と供給不足により、国際チャーター便を中心に便数が減少していること、食料品や燃料などの価格高騰を背景に国内客の節約志向が強まっていることが挙げられる。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・物価高騰に加え、中東情勢を要因とした石油関連製品の価格高騰や供給不安などの報道により、客の消費マインドが低下しており、国内観光需要にマイナスの影響を与えている。インバウンドについては、冬季観光シーズンが終了したことで閑散期を迎えており、就航便数が減少していることがマイナス要因となっている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・前年と比べて、来客数が緩やかに減少して推移する傾向がみられるなか、ここに来て減少幅が大きくなっている。特に海外旅行の落ち込みが目立っている。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・予約のキャンセル、旅行の延期が増加している。また、高価格帯商品の売行きが不振であり、費用を抑えることのできる近場の国内旅行や日帰り旅行に需要がシフトする傾向がみられている。客からの問合せ内容を見ると、安く行きたい、割引情報はないかといった価格重視のものが増加傾向にある。これらのことから、先行きへの不安から、消費者が支出を抑える傾向が強まっており、旅行に掛ける費用を慎重に検討していることがうかがえる。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・物価高、円安、燃料の価格高騰などの影響で、景気はやや悪くなっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・5月は天候の良い日が多かったこともあり、タクシー1台当たりの売上は前年比マイナス5%であった。前年12月に値上げを行ったことを考慮すると、利用状況は前年を大きく下回っていると見込まれる。特に夜間の売上減少が目立っている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・春を迎えて、気温が上がり、歩きやすい時期となったことから、利用者数が減少している。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・客との会話から、食料品以外の商品も値上がりしているとの話を聞く機会が増えている。店頭での商品の売上もかなり減少している。

	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・前月以降、来客数が落ち込んでいる。特に5月は、前年と比べて、来客数が10%ほど減っている。
	▲	美容室（経営者）	それ以外	・物価高が続いており、効果的な対策もみられないことから、景気はやや悪くなっている。原油やナフサの供給不安による資材の調達難もじわじわとみられるようになっている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数が目に見えて減っている。客の節約意識も強まっており、客単価も低下している。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・ナフサ問題の影響がじわじわと現れており、包装資材を中心に値上げの動きが強まっている。メーカーも資材価格高騰の影響を大きく受けており、夏頃には価格改定が行われ、買い控えが進むことが懸念される。
	×	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後から、極端に景気が悪くなっている。
	×	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客の買物の様子をみると、豆腐や納豆のような単価の低い商品を購入する傾向が強まっている。
	×	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・例年よりも暖かくなるのが早かったことから、クールビズ関連の商品が早いうちから売れていたものの、物価上昇に関する報道が増えてきたことで、セール商材しか動きがみられなくなっている。非常に厳しい状況となっている。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・原油価格の上昇や石油化学製品の供給不安などが報道されるようになったことで、消費の停滞感が強まっている。また、非耐久消費財の値上げに伴って、客の節約志向が強まっている。今後、消費マインドが一層冷え込むことが懸念される。
	×	乗用車販売店（従業員）	それ以外	・物価高騰に伴う消費者の負担増、倒産企業の増加などにより、販売量が減少している。このため、景気は悪くなっている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・石油関連製品の価格上昇により、住民の節約志向が全体的に強まっている。不要不急の消費を抑える際に、タクシーの利用は真っ先に控えられることになるため、景気は悪くなっている。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の人数が大きく落ち込んでいる。さらに、客の多くが様子見であり、購入するかどうかの意思決定をしないことがほとんどである。
企業動向関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・以前と比べると、見積依頼の件数が回復傾向にある。
	○	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度初めから多数の案件の発注が始まっている。規模の大きな案件も含まれており、好調なスタートとなっている。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・新年度の受注工事の着工期を迎え、技術職員の配置がほぼ完了したことから、ゴールデンウィーク明けから全現場が本格稼働しており、順調な立ち上がりとなっている。
	○	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・以前と比べて、発注件数や物流量が増加している。
	○	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・半導体関連企業が新たに進出する兆しがみられることから、景気はやや良くなっている。
	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・相続や住宅リフォーム関連の売上が好調であった。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・国内の建設投資は、公共、民間共に、堅調に推移している。ただし、人手不足やインフレを要因とした民間プロジェクトの延期、見直しなども生じている。今期の減益を見込むスーパーゼネコンもあり、今後に向けて注意が必要な状況にある。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・青果物、特に果物の収穫前の時期となることから、動きが余りみられない状況にある。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注金額が前年と変わらない。

	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・中国からのインバウンドが減少していることで、特に中国との就航便数の多い空港で苦戦が続いている。全体的には、ゴールデンウィーク明けに売上が落ち込む傾向がみられたものの、その後は緩やかに回復しつつある。
	□	輸送業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・倉庫関連では、バターや粉乳などの乳製品の保管が引き続き堅調であり、今後もしばらくは微増傾向で推移すると見込まれる。トレーラー輸送関連では、燃料などのコスト上昇に価格転嫁が追い付かず、収益が圧縮されている。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・ベース商材の動きは良くなっていないものの、中東情勢の影響で、商品が緊急的に動く状況がみられたことはプラスであった。ただし、物資の調達に困難が生じつつあることから、今後については、注意が必要である。
	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・北海道の住宅着工棟数について、2025年度は2万5000戸を切り、64年ぶりの低水準まで落ち込んでいることから、景気はやや悪くなっている。さらに、ナフサ問題による建設資材の供給不足もマイナスである。住宅着工棟数の落ち込みは、住宅を建てようとする若い世代の人口減少が、最大の要因であることから、今後もこうした傾向は続く見込まれる。
	▲	金融業(従業員)	取引先の様子	・中小企業において、価格転嫁を続けることへの疲労感が漂い始めている。また、価格転嫁により、需要の減少や同業者との競争に負ける懸念が強まっていることから、景況感はやや悪くなっている。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・例年であれば、不動産売買が活発になり、年間利益の多くを稼ぐ時期であるものの、今年は例年と比べて3割ほど受注量が減っている。要因として、原材料不足による新築工事やリフォーム工事の遅れ、物価上昇に伴うコスト増加が挙げられる。
	×	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・5月の販売量は、前年比マイナス7%であった。3か月前の販売量は、前年比プラス31%であったことから、景気は悪くなっている。
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(北海道)	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は3か月前と変わっておらず、今期の月平均求人数を維持している。一方、当社が企業に提案した人材との面接数は、前年比で2割の増加となっており、3か月前よりも増えている。このことから、企業の人手不足はいまだ解消されておらず、引き続き採用意欲の強い状況にあることがうかがえる。ただし、前年と比較すると、内定比率は2割強低下しており、企業は妥協してまで、採用人材の質を下げることを考えていないことがうかがえる。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・従来の求人媒体を利用した求人件数が下げ止まらない状況にある。さらに、企業では、セグメント別に人材を厳選しており、採用を慎重に判断している様子がうかがえる。正社員の採用が厳選されていること、パートやアルバイトなどの求人数が減少していることから、今後も採用人数が大きく増えることは期待できない。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・当地における4月の有効求人倍率は0.74倍であり、前年を0.06ポイント下回り、9か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は7か月連続で前年を下回っているものの、求人数の減少幅は月によって変動していることから、求人数の減少が景気の落ち込みによるものとは判断できない状況にある。
	□	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・人手不足に伴って、企業の採用意欲は上向いている。ただし、求職者とのミスマッチも多いことから、景気が良くなるとまではいえない状況にある。
	▲	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・求人数は3か月前と比べて大きく変わっていないものの、採用者数が減っていることから、景気はやや悪くなっている。

▲	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・燃料価格や物価の高騰により、業種を問わず先行き不安が解消されていないことから、景気はやや悪くなっている。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・中東情勢の影響により、建設や自動車、工場関連では、資材不足で仕事が円滑に回らない状況がみられ始めている。また、一部商品の品薄感に加え、仕入コストの増加から、企業における先行きへの不透明感も強まっている。こうした状況を背景に、一部の業界では、採用抑制など雇用面への影響が出始めている。一方、仕事量減少の影響を受けて、求職者からの応募は増加傾向にあり、人材市場にも変化がみられ始めている。
▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・中東情勢の影響を受けて、塗装業者や薬局などから、シンナーや薬のカプセルなどの資材が入ってこないとの話を聞く機会が増えている。実際に話として聞こえてくるのは、氷山の一角とみられるため、資材の価格高騰や調達不安などの影響が幅広く現れ始めているとみられる。
▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・現時点では、求人状況に大きな変化はみられないものの、企業の経営状況に中東情勢の影響がみられ始めている。特にナフサ由来の資材調達について、中小規模の小売業、塗装業、自動車関連業の企業から、話を聞くことが増えている。今後の求人状況に影響が出てくることが懸念される。
×	*	*	*